

17歳で死んだ兄

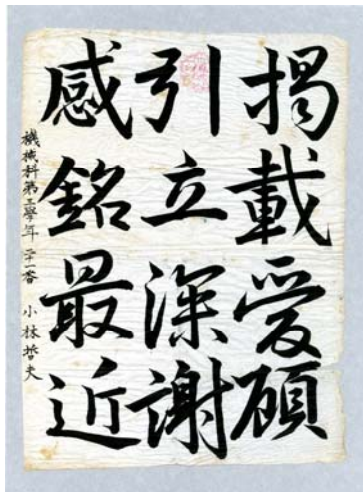
形見の習字

寄贈／小林イク子

小林哲夫さん(17歳)。1945年(昭和20年)3月に県立広島工業学校を卒業し、広島市水道局に就職したばかりだった。中学校に入学してから県西部の大竹市の実家を離れ、広島市内に下宿していた哲夫さん。職場で被爆して親戚宅まで逃れたが、8月16日に亡くなった。

寄贈者(哲夫さんの妹)のお話から

「父はすでに亡く、母も全身に大やけどを負って帰っており、私たちは兄を迎えに行くことが出来ずにいました。15日の終戦に兄は飛び上がって驚き、がっくりと力を落として翌日逝ってしまいました。若くして亡くなった兄が不憫でなりません。」



小林哲夫さん



1944年(昭和19年)9月